

もっと知りたい

武者小路実篤

詩3

のびのび

むしゃこうじさねあつ
武者小路実篤の詩には、無邪気な思いつきや、のんきな楽しい気分が書かれています。

そんな実篤の詩を読むと、私たちの心もゆったり明るくなります。
しんこきゅう
深呼吸して、のびのびしましょう。

長い廊下

長い廊下を一人で

どしんどしんどしんと

おおまたで力を入れて歩いて見たい。

そうして時々、大声で怒鳴って見たい。

お——い

反響のない所で

力を入れて歩くのは、

損な気がする。

反響のない所で、どなつて見るのも。

消えてゆくのが淋しい。

どしんどしんどしん

あたりにそれが響く。

お——い

あたりにそれが響く。

その内を一人で、小供らしく歩いて見たい。

(後略)

あなたも、誰もいない学校の廊下で、こんな思いをしたことはありませんか。「長い廊下」に書かれた気持ち、よく分かりますね。

この詩を書いた時、実篤は24歳。子供っぽい？ いいえ、大人だからとカッコつけずに、思つたままを書いているのです。絵に書かれた言葉のように、人目ばかり気にしないで、マイペースでいきましょう。



つわぶき 昭和44年



川の流れ

心のよろこび

川の流れを見ているのはすきだ、いつまでも見てみたい、生きている、生きている、

だまつてほつたらかしておくと元気になつてよろこんでいる

凄い程、生きている。
お前達はうれしいだろう。

俺の心の呑氣さ。

凄い程、生きている。

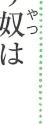
海へゆける。
お前達はうれしいだろう。

この心のよろこび
俺はどこかでいいことをしているのだろう。

この心のよろこび



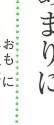
心と云う奴は



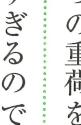
余程よろこびたがる動物なのだが



人々はあまりに



いろいろの重荷を
負わせすぎるのはないかな。



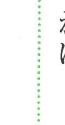
のびのびして、心がよろこべ
ば、あなたの言葉にも羽が生え
て、詩になるかもしぬませんよ。



誰の心でも



無心になれば
自づと



よろこべるものでは
ないのかな——



向日葵 昭和43年



考えすぎないで、身のまわり
の自然の中で、見えるもの、聞
こえること、なんでも素直に感
じてみましょう。

実篤は「言葉に羽が生えると
詩になる」と言っています。

のびのびして、心がよろこべ
ば、あなたの言葉にも羽が生え
て、詩になるかもしぬませんよ。

- ◆長い廊下 ([白樺] 明治43年10月号より)
〔詩〕大正10年1月号より)
- ◆心のよろこび ([草原] より 大正13年4月 新潮社刊)
- ◆川の流れ ([詩] 大正10年1月号より)